

編集後記

第十号をお届けします。石井鶴三、北杜夫関連論文をはじめ、今号もさまざまなテーマについてご寄稿いただき、本学附属図書館が関連する多様な側面を紹介することができました。執筆者の方々には、厚く御礼申し上げます。

2020年は、新型コロナウイルスに大きく翻弄された年でした。附属図書館では、これまでの来館を前提としたサービスの提供が困難となりました。閉館せざるを得なくなった期間は、電子資料の提供、郵送での資料貸出サービスにより利用者に学術情報を届け続けました。活動が制限される中で、改めて大学図書館の使命とはなにかを考える機会となりました。オンラインを活用した学修支援、電子ブックの導入促進など、コロナ禍を機に始まった取り組みもあります。コロナ後の新たな時代に向けて、試行錯誤の日々が続いています。これまでの附属図書館の対応については、特集「信州大学附属図書館における新型コロナウイルス感染症対応」をご覧くださいと幸いです。

事務局構成員にも大幅な変更がありました。出版委員会の構成員である管理課長は、森いづみ氏から棚橋是之氏に交代しました。また、校正作業メンバーには、中嶋美代子さん、上嶋星美さんが加わりました。第7号から公開にご協力いただいていた湯本寛深さんは、今号が最後のご担当となり、窓口は石坂憲司さんから武田に交代しました。本誌発行に尽力された湯本さん、石坂さんに感謝申し上げます。

引き続き、編集作業を円滑に進めたいと考えております。どうぞよろしく願いいたします。

武田 佳代